

平素より大変お世話になっております。
このたび小社では、標記の書籍を刊行する運びとなりましたのでご案内申し上げます。

「サプール」だけじゃなかった!?
世界各地で同時多発的に起こっているファッションルネッサンスの
最新ドキュメント!!



FASHION TRIBES

GLOBAL STREET STYLE

「サプール」を世に知らしめた写真家、ダニエーレ・タマーニによる 「SAPEURS the Gentlemen of Bacongo」の続編ともいべき写真集!

ビビッドな色のスーツでエレガントにキメたコンゴ共和国の「サプール (SAPEURS)」が、NHKの特番で紹介されてから一年あまり。その後、弊社の写真集『SAPEURS』(2015年刊)をはじめ、近いところでは西武渋谷店での展覧会、それに合わせての本国からの「サプール」来日など、ブームは過熱するばかりです。このブームの根底にあるものは何でしょうか。単に上辺のオシャレというだけでなく、精神性の高まり、ファッションを通じて「自分革命」を起こすという、外と内の両輪の相乗効果が、見る者を引きつけて止まないのではないのでしょうか。

今、「サプール」に代表されるファッションルネッサンスともいべき現象が、ファッションの辺境と思われていた場所で局地的に発生しています。「サプール」を世界に先駆けて写真集にまとめたダニエーレ・タマーニは、その動向にいち早く気づき、南アフリカのストリートダンサー、ボリビアのスカート姿の女性レスラー、ボツワナのメタルヘッズなど、7カ国の“ファッションライブ”取材しました。タマーニはそれらのグループの信頼を勝ち取るため何日も一緒に過ごします。その結果、彼の撮る写真は被写体の個性そのままの、唯一無二の記録となります。被写体のグループらに共通するのは経済状況などの劣勢を、自らのクリエイティビティで超越していることです。その姿が見るものの感動を呼びます。

本書は、写真とともに、ファッションジャーナリスト、社会学者、美術研究者らによって執筆されたスタイルの側面を探求するエッセー、被写体のメッセージも収録した、画期的一書です。



「サプール」はアメリカのポップスターでビヨンセの妹でもあるソランジュ・ノウルズのミュージックビデオに登場するなど、今やグローバルな存在になっている。



■ 書籍情報

発行日：2016年5月
書名：FASHION TRIBES
GLOBAL STREET STYLE
著者：ダニエーレ・タマーニ
判型：B5変型・上製
総頁：292頁
定価：本体3,200円＋税
ISBN：978-4-86152-545-2 C0072

■ 著者紹介

ダニエーレ・タマーニ

フリーランスのファッション&ドキュメンタリー・フォトグラファーでミラノを拠点に活動する。『SAPEURS the Gentlemen of Bacongo』の著者でもある彼は、2010年にはインターナショナル・センター・オブ・フォトグラフィー (ICP) の美術&エンタテインメント部門で賞を受賞。作品は世界中で展示されている。

著者への取材、画像の手配などご要望があれば、下記担当までご一報下さい。

株式会社青幻舎 〒604-8136 京都市中京区三条通烏丸東入ル梅忠町9-1 TEL 075-252-6766/FAX 075-252-6770

広報担当・新庄：shinjo@seigensha.com

■本書の中面を紹介①

南アフリカ／ヨハネスブルグ

2005年に南アフリカのポップカルチャー・シーンで大人気を博した「スマーティーズ」をはじめ、ダンスとファッションを通して自己表現を行っている野心的なグループ「ヴィンテージ・クルー」、エレガントで個性的なファッションセンスの「ザ・サルティスト」など、南アフリカのファッションシーン最前線を紹介。



The Sartists
Kabelo Kungwane and Wanda Lepoto are two friends who have always been passionate about fashion. Lepoto studied at the LISOF fashion design school in Johannesburg, while Kungwane studied journalism. Both twenty-year-olds are already well-known in the South African fashion world for their vintage look. The Sartists are elegant and have a pronounced individual sense of fashion.

"While studying in high school, when I was sixteen, I liked the style of political figures from the 1950s and '60s - Martin Luther King Jr. and Patrice Lumumba, for example."

Kabelo Kungwane

ザ・サルティスト
 カベロ・クングワネとワンダ・レポトは友人だが、二人はずっとファッションに関心を抱いてきた。レポトはヨハネスブルグのファッション・デザイン校LISOFで学び、クングワネはジャーナリストを勉強した。2人とも20歳で、そのヴィンテージのルックで南アフリカのファッション界で名を馳せ始めた存在だ。ザ・サルティストはエレガントで、個性的なファッションセンスで知られている。

「高校で勉強しながら、俺は16歳だったときから、50年代、60年代の政治家たちのスタイルが好きになった。マーティン・ルーサー・キング・ジュニア、パトリック・ルンバ（パトリック・ルンバのこと）」

カベロ・クングワネ

セネガル／ダカール

伝統的なファッションに身を包み、セネガル人女性の代表のようなふくよかな女性たち「ディリアンケ」と、片や「グザリー・ファッション」と呼ばれるセクシーなファッションに身を包みナイトライフを楽しむ若い女性たち。



■本書の中面を紹介②

コンゴ共和国／ブラザビル

ブラザビルの貧しい地区であるバコンゴを中心に活動する、我が道を行くエレガントな紳士たち、「サブール」。SAPE（おしゃれで優雅な紳士協会「La Societe des Ambianceurs et des Personnes Elegantes」）のメンバー。



キューバ／ハバナ

ハバナのストリートのキューバ人たち。ドルチェ&ガッバーナ、ナイキ、ルイ・ヴィトン、アルマーニなど、よく知られた西洋のブランドで着飾り街を闊歩する。



ボリビア／ラ・パス

伝統的な衣服を纏い身なりを整え、レスリングをする女性たち「フライング・チョリータス」。



ミャンマー／ラングーン

70年代中盤のイギリスのパンクスにインスパイアされた、都会の若いビルマ人たち。そのスタイルは本書で取り上げられた他の国の例と異なり、わざと着くずした、エレガントではない過剰さがある。



ボツワナ／ガボローネ

80年代のヘビーマタルに、西洋のカウボーイスタイルとアフリカのアクセントとを掛け合わせて誕生した、タフでクールで威圧的なスタイル「アフロメタル」。



■ 広報用画像一覧

画像使用の際は、「FASHION TRIBES GLOBAL STREET STYLE ©Daniele Tamagni」と明記してください。



① ソランジュ・ノウルズと「サブール」



② コンゴ共和国／「サブール」



③ 南アフリカ／「ヴィンテージ・クルー」



④ 南アフリカ／「ヴィンテージ・クルー」



⑤ 南アフリカ／「ヴィンテージ・クルー」



⑥ 南アフリカ／「スマーティーズ」



⑦ セネガル／「グザリー・ファッション」に身を包む若い女性



⑧ ミャンマー／「ビルマ・パンクス」



⑧ ボリビア／「フライング・チョリータス」



⑩ ボツナワ／「アフロメタル」